

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):



### BLACK BORDERS

- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-010765

(43)Date of publication of application : 14.01.1992

(51)Int.CI. H04N 1/40  
H04N 1/387

(21)Application number : 02-111973

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 27.04.1990

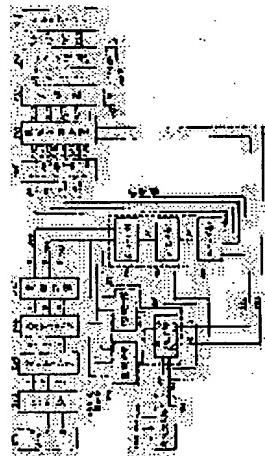
(72)Inventor : KURITA MITSURU  
FUNADA MASAHIRO  
TAKAHASHI HIROYUKI  
KATAOKA TATSUHITO  
KAJITA KOJI

## (54) IMAGE PROCESSOR

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To obtain image having high picture quality by discriminating an image area in a system for compressing image data and storing the compressed image in a memory and executing image processing based upon the discriminated result.

**CONSTITUTION:** This image processor is provided with an input image data reading means 101, an image data compressing means 206, a memory means 207 for storing compressed data, a memory output extending means 208, a means 209 for detecting the property of an image by using input image data or extended data, and a means 210 for executing image processing based upon the output of the memory 207 and a detected result. Namely, image area separating processing is executed in the system for compressing an input image and storing the compressed image in the memory. Consequently, the image having high picture quality can be obtained.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開  
⑫ 公開特許公報 (A) 平4-10765

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>  
H 04 N 1/40  
1/387

識別記号 F  
厅内整理番号 9068-5C  
8839-5C

⑭ 公開 平成4年(1992)1月14日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全20頁)

⑮ 発明の名称 画像処理装置

⑯ 特願 平2-111973  
⑰ 出願 平2(1990)4月27日

⑱ 発明者	栗田 充	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
⑲ 発明者	船田 正広	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
⑳ 発明者	高橋 弘行	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
㉑ 発明者	片岡 達仁	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
㉒ 発明者	梶田 公司	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	キヤノン株式会社内
㉓ 出願人	キヤノン株式会社	東京都大田区下丸子3丁目30番2号	
㉔ 代理人	弁理士 丸島 儀一	外1名	

明細書

1. 発明の名称

画像処理装置

2. 特許請求の範囲

- (1) 画像データを入力する手段、  
前記画像データを記憶する手段、  
前記画像データまたは前記記憶手段から読み出されたデータの少なくとも一方を用いて画像の性質を検出する手段、  
前記記憶手段から読み出されたデータ及び前記検出結果に基づいて画像処理を行う手段とを有することを特徴とする画像処理装置。  
(2) 更に前記検出結果を記憶する第2の記憶手段を有することを特徴とする請求項第(1)項記載の画像処理装置。  
(3) 前記記憶手段には圧縮された画像データが記憶されることを特徴とする請求項第(1)項記載の画像処理装置。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、入力画像をデジタル的に処理する画像処理装置に関するものである。

【従来の技術】

近年、カラー原稿を色分解し、画素ごとに読み取り、読み取った画像データをデジタル処理し、カラープリンタに出力する事により、デジタルカラーハードコピーを得るデジタルカラー複写機が広範に普及しつつある(第1図(a))。さらに高速化の要求に答えるべく第1図(b)に示す様に、4つのドラムから構成され各ドラムにて1色ずつ印刷してLBPプリンタから出力する手法が提案されている。

一方、カラー反射原稿に対して、文字はより文字らしく、画像はより画像らしくという要求が高まっており、これに対しては像域分離によって文字部と画像部を分離し、文字部には高解像処理が、特に黒い文字に関しては黒単色で打たれる処理が、他方画像部には高階調処理を行う技術が提案されている。

さらに上述の4つのドラムから構成されるカ

ラー複写機において画像データを記憶するメモリが必要で、この場合、コスト、伝送レート等を考えた場合、画像データを圧縮して記憶することが必要である。

## 【発明が解決しようとしている課題】

しかしながら、上記従来例では画像データを圧縮して、メモリに記憶する系において像域判定を行ない、その結果に基づいて画像処理を行なうものは存在しなかった。

さらに、仮に従来技術の系でこれを実現するには、文字部、特に黒い文字部に対してオペレータがデジタイザ等により領域指定を行ない、指定部のみ黒単色でかつ、高解像処理を施して出力するしか方法がなかった。

そこで、本発明は高画質の画像を得ることのできる画像処理装置を提供することを目的とする。

## 【課題を解決するための手段及び作用】

上記課題を解決するため、本発明の画像処理装置は、画像データを入力する手段と、前記画像データを記憶する手段と、前記画像データまたは前

記記憶手段から読み出されたデータの少なくとも一方を用いて画像の性質を検出する手段と、前記記憶手段から読み出されたデータ及び前記検出結果に基づいて画像処理を行う手段とを有することを特徴とする。

## 【実施例】

以下に説明する本発明の実施例によれば、入力画像データ読み取り手段、画像データ圧縮手段、圧縮データを記憶するメモリ手段、メモリ出力伸張手段、入力画像データもしくは伸張後のデータを用いて画像の性質を検出する手段、前記メモリからの出力及び前記検出結果に基づいて画像処理を施す手段を設けることにより、入力画像を圧縮してメモリに記憶する系において、像域分離処理を施す様にしたものである。

第1図(a)に本発明の実施例の1つであるカラー複写機を示す。本カラー複写機は、カラー原稿を画素ごとに色分解し、電気信号としてデジタル的に読み取り、レーザービームプリンター部で、電子写真方式によりフルカラープリント画像を

得るものである。Aは画像読み取り部、Bは画像プリント部に相当する。画像読み取り部Aでは、原稿露光Dランプ2によりカラー原稿1が照射され、カラー原稿より反射したカラー反射光像は、カラーイメージセンサー3上に結像する。カラーイメージセンサーで画素ごとに色分解されたカラー画像信号は、カラー信号処理回路4で、信号処理され、ケーブル2・5を通じて画像処理回路5に入力される。画像処理回路5では、入力信号のデジタル化、色信号のデジタル画像処理により、色補正したのち、デジタル画像信号を、画像プリント部へ送出する。ケーブル6を介してプリント部へ送出された画像データに応じて、半導体レザードライプ部7より半導体レーザー8を変調して感光ドラム上にラスター状に、色分解された単色潜像を形成する。形成された潜像は現像装置21において、顯像化され(現像)、色分解トナー像が感光ドラム上に形成される。一方、カセット17(又は18)より、コピー紙は給紙され、転写ドラム12上に巻き付けられ、前述した色

分解トナー像に同期して、コピー紙にトナーが転写される。

第1図(a)から明らかな様に、一回の画像形成工程では、1色分の画像しか形成されないので、原稿の色分解工程を、トナーの色数分、即ち、Y(イエロー)、M(マゼンタ)、C(シアン)、K(ブラック)の4回分くり返し、また、同様に各々の色分解に同期して、各色成分に応じた潜像形成→現像→転写の工程もくり返す事になる。こうして、転写ドラム12に巻き付いたまま4色分の転写を終えるべく、4回転したのち、分離爪13で紙は剥離され、熱・圧力定着ローラー15、16へと導かれ、コピー紙上のトナー画像は定着されて機外へ排出され、1枚のフルカラー複写が終了する。即ち、この種のカラー複写機の場合、どうしても各色分解画像Y、M、C、Kを1工程ずつ、くり返さなくてはならず、更なる高速化には適さない。

以上の点より更なる高速化を実現する為に、本発明の別の実施例として第1図(b)の様な構成

のカラー複写機を説明する（第1図と同一の機能のものは、同一の番号を付すものとする）。

原稿台1に設置された原稿が、照明ランプ2により照射され、CCDカラーセンサー3により色分解画像が読み取られて、カラー信号処理回路4、ケーブル25を経由して、画像処理回路5でデジタル画像処理が行なわれるまでは、第1図と同様であるが、この構成の装置では、その後、フルカラー画像信号1ページ分をメモリ装置26に一旦格納する。即ち、後述する様にこの種の装置では、感光ドラム（画像形成部）が、複数、並置されており、同一時間に複数色の画像形成を行なうために、少なくとも、隣接する画像形成部間の距離分だけの画像を格納する必要があるからである。一方、像形成部は各色成分M（マゼンタ）、C（シアン）、Y（イエロー）、K（ブラック）用に独立して、それぞれ感光ドラム（24～32）、1次帯電器（41～44）、現像器（33～36）、転写帯電器（37～40）、クリーナー装置（62～65）を有しており、カセットから給紙した紙

の進行に伴って紙の先端検出器67で検出される。紙の先端信号に同期して、図示しないタイミング制御回路により既にメモリー26に格納された各色成分毎の画像信号が適正なタイミングで読み出され、第2のデジタル画像処理部27で信号処理されたのち、M（マゼンタ）画像は半導体レーザー67より画像により変調された光ビームがポリゴンミラー28、反射ミラー45、46、47により反射されて感光ドラム29に照射され、潜像が形成されたのち、現像器33でマゼンタ色のトナーが現像され、転写帯電器37によりコピー紙の上に、第1色目のマゼンタ画像が形成される。引き続き第2、第3、第4ステーションで同様にC（シアン）、Y（イエロー）、K（ブラック）が精度良く現像され、転写されて後、定着ローラ15、16により定着されて1枚のコピー動作が完結する。

上述した様に、複数の画像形成部が並置される構成をとっているので、1枚のフルカラーコピーを完結する為に、大容量のメモリが必要となり、

かかるタイプの装置では、以下に説明する本発明が特に有効である。

第2図は本発明の画像処理装置の全体ブロック図である。カラー原稿を読み取り、さらにデジタル編集、加工処理等を行うカラーリーダ部と異なった色毎に像担持体を持ちリーダーから送られる各色のデジタル画像信号に応じてカラー画像を再現、出力するレーザーカラープリンタ102より構成される。

次に、カラーリーダ部101におけるデジタル画像処理部を説明する。図示しない原稿台上のカラー原稿は図示しないハログランプで露光される。その結果反射像がCCD201にて撮像され、さらに102にてサンブルホールドされた後A/D変換され、R、G、Bの三色のデジタル信号が生成される。各色分解データは203にてシエーディング及び黒補正され、さらに204にてNTSC信号に補正、205にて拡大、縮小等の変倍がなされ、圧伸部のエンコーダ部206、色検出部213、文字検出部214に入力される。

206～208は圧縮伸長部（圧伸部）である。206で圧縮されたR、G、Bデータはメモリ207に書き込まれ、さらにメモリ207から読み出された圧縮コードは208にて伸長され、ここから各ドラムに対するYMC信号が出力される。

209にて、4色分のマスキングUCRがかけられ、さらに像域分離処理部210にて文字検出部214、色検出部213の結果に基づいた像域分離処理がなされる。211ではマスク212ではエッジ強調がかけられ4色分のデータがカラーレベルプリンタ102に出力される。

216は画先センサの出力DTOP、紙先センサの出力ITOP及び水平同期信号MSYNCに基づいてメモリ207、205の書き込み及び読み出しの主走査、副走査イネーブルを生成する領域生成部である。

第3図は文字画像検出部（213～215）を詳しく説明した図である。変倍回路205より入力される色分解データ303、304、305は最小値検出回路Min(RGB)301及び最大

値検出回路 Max (RGB) 302 に入力される。それぞれのプロックでは、入力する R、G、B の 3 種類の輝度信号から最大値、最小値が選択される。選択されたそれぞれの信号は、減算回路 304 でその差分が求められる。差分が大、すなわち入力される R、G、B が均一でないことでない場合、白黒を示す無彩色に近い信号でなく何らかの色にかたよった有彩色であると判断される。またこの値が小さければ、R、G、B の信号がほぼ同程度のレベルであることがあり、なにかの色にかたよった信号でない無彩色信号であることがわかる。この差分信号はグレイ信号としディレイ回路 333 に出力されさらにメモリ 215 に入力される。

Min (RGB) 301 で求められた最小値信号は、別にエッジ強調回路 303 に入力される。エッジ強調回路 303 では、主走査方向の前後画素データを用い以下の演算を行うことによりエッジ強調が行われる。

=====

1 1

ツク値がセットできる様構成されており、 $5 \times 5$  平均値が設定リミット値より大きい場合、出力はリミット値でクリップされる。各リミットからの出力信号は、それぞれコンパレータ 1 316、コンパレータ 2 321、コンパレータ 3 326 に入力される。まず、コンパレータ 1 316 ではリミット 1 313 の出力信号と  $3 \times 3$  平均 310 からの出力とで比較される。比較されたコンパレータ 1 316 の出力は、後述する網点領域判別回路 322 からの出力信号と位相を合わせすべくディレイ回路 317 に入力される。この 2 値化された信号は、任意の濃度以上で MTF によるつぶれや、とびを防止するために平均値での 2 値化を行っており、また網点画像の網点を 2 値化で検出しないよう、網点画像の高周波成分をカットするため、 $3 \times 3$  のローパスフィルターを介している。次にコンパレータ 2 (321) の出力信号は、後段にある網点領域判別回路 322 で判別できるよう、画像の高周波成分を検出すべくスルーデータとの 2 値化が行われている。網点領域

$$D_{out} = \frac{9}{8} D_1 - \frac{1}{16} (D_{-1} + D_{+1})$$

D<sub>out</sub> : エッジ強調後の画像データD<sub>1</sub> : 1 番目の画素データ

なお、エッジ強調は必ずしも上の方法に限らず例えば、複数ラインの画像データを用いてマトリクス処理を行う等、他の公知の技術を用いても良い。主走査方向に対しエッジ強調された画像信号は、次に  $5 \times 5$  および  $3 \times 3$  のウインドウ内の平均値算出が、 $5 \times 5$  平均 309、 $3 \times 3$  平均 310 で行われる。ラインメモリ 305～308 は平均処理を行うための副走査方向の選延用メモリである。 $5 \times 5$  平均 309 で算出された  $5 \times 5$  平均値は次にやはり図示されていない CPUBUS に接続されたオフセット部に独立にセットされたオフセット値と加算器 315、319、324 で加算される。加算された  $5 \times 5$  平均値はリミット 1 313、リミット 2 318、リミット 3 323 に入力される。各リミットは図示しない CPUBUS で接続されており、それぞれ独立にリミ

1 2

判別回路 322 では、網点画像がドットの集まりで構成されているため、エッジの方向からドットであることを確認し、その周辺のドットの個数をカウントすることにより検出している。

このようにして網点領域判別回路で判別した結果と前記ディレイ回路 17 からの信号とで OR ゲート 329 をとった後誤判定除去回路 330 で誤判定を除去した後インバータゲート 331 に出力する。この誤判定除去回路 330 では、文字等は細く画像は広い面積が存在する特性を生かし 2 値化された信号に対し、まず、画像域を細らせ、孤立して存在する画像域をとる。具体的には、中心画素  $\times 1$  J に対し、周辺 1 mm 角のエリア内に 1 画素でも画像以外の画素が存在する時、中心画素は画像外域と判定する。このように孤立点の画像域を除去した後、細かった画像域をもとにもどすべく太らせ処理が行われる。同様に網点判別回路 322 の出力は直接誤判定除去回路 331 に入力され細らせ処理、太らせ処理が行われる。ここで細らせ処理のマスクサイズは、太らせ処理のマ

スクサイズと同じか、もしくは太らせ処理の方を大とすることにより、太らせた時の判定結果がクロスするようになっている。具体的には、 $17 \times 17$ 画素のマスクで細らせた後、さらに $5 \times 5$ のマスクで細らせ、次に、 $34 \times 34$ 画素のマスクで太らせ処理が行われている。

次にコンパレータ3 326からの出力信号は後段で文字をシャープに処理すべく入力画像信号の輪郭を抽出している。抽出方法としては、2値化されたコンパレータ3 326の出力に対し $5 \times 5$ のブロックでの細らせ処理、および太らせ処理を行い太らせた信号と細らせた信号の差分域を輪郭とする。この様な方法により抽出した輪郭信号はインパート331より出力されるマスク信号との位相を合わせるべくデイレイ回路328を介した後ANDゲート332にかけられ文字信号としてメモリ215に入力される。

第4図はメモリ部215を詳しく説明する為の図である。文字画像検出部の結果2ビットを4つのピットマップメモリ416～419に書

き込みさらに4つのドラム用のイメーブル信号(RLE, RPE1～RPE4)に同期して4つのメモリからデータを読み出す部分である。

ORゲート402、403、415、セレクタ407、アドレスカウンタ411、ピットマップメモリ416、バスセレクタ420がMドラム用メモリ部、ORゲート404、セレクタ408、アドレスカウンタ412、ピットマップメモリ417、バスセレクタ421がCドラム用メモリ部ORゲート405、セレクタ409、アドレスカウンタ413、ピットマップメモリ418、バスセレクタ422がYドラム用メモリ部、ORゲート406、セレクタ410、アドレスカウンタ412、ピットマップメモリ419、バスセレクタ423がKドラム用メモリ部である。いずれも構成は全く同じなのでMドラム用メモリ部を用いて以下説明する。

ORゲート402、403でそれぞれアドレスカウンタ411のイネーブル信号が生成される。さらに415にてメモリ416のWE信号が生成

されるライト時は図示しないCPUバスによりセレクタ407でAセレクト、バスセレクタ420ではライトモードにされWE信号及びアドレスカウンタ411の出力に基づいて401がメモリ416に書き込まれる。一方、リード時は図示しないCPUバスによりセレクタ407でBセレクト、バスセレクタ420ではリードモードにされ、WE信号及びアドレスカウンタ411の出力に基づいてメモリ416から読み出される(3341, 3342)。その他3つのドラム用のメモリの制御も上記と全く同様なので省略する。

次に圧縮部の説明を行う。

第5図は圧縮、伸長処理の流れを示す図である。この図に於て501は原稿画像である。502は画素ブロックであり、例えば( $4 \times 4$ )の画素 $X_{11} \sim X_{14}$ で構成される。この原稿画像501は3原色R<sub>11</sub>、G<sub>11</sub>、B<sub>11</sub>に画素X<sub>11</sub>はR<sub>11</sub>、G<sub>11</sub>、B<sub>11</sub>に、画素X<sub>12</sub>はR<sub>12</sub>、G<sub>12</sub>、B<sub>12</sub>に分解される。これが303～305にあたる。更に

色情報処理の便宜より上記R、G、Bデータを例えばCIE1976 L\* a\* b\* 表色系の明度指数L\* 及び色度指数a\*、b\*に変換する。こうして得た明度データのブロックL\* ( $L_{11} \sim L_{14}$ )についてはこれを最終的なL-codeに符号化し、色度データのブロックa\* ( $a_{11} \sim a_{14}$ )及びb\* ( $b_{11} \sim b_{14}$ )についてはこれらを複数段階を経て順次統括的に符号化し最終的なab-codeを得る。こうした符号化は例えば $4 \times 4$ 画素ブロックで考えるならば、 $16$ 画素 $\times 3$ 色 $\times 8$ bit = 384bitとなり、本実施例の様にコード化して32bitにすることはつまりデータを1/12に圧縮したことになる。

コード化されたデータは符号化コードメモリ207に領域生成部216にて生成されるライトイネーブル信号217、218に基づいて一時記憶させ、さらに必要に応じてリードイネーブル信号217、218に基づいて順次読み出しを行う。この際、メモリー中のデータは $4 \times 4$ のブロックとしてコード化されており、再度復号化を行う為

には  $4 \times 4$  に対応した分だけデータを復号手段に対して供給する必要性がある。その為に復号データ制御回路 404 が必要となる。復号データ制御回路は大きく分けてラインメモリとデータ並直回路と直並回路に大別され、例えば 32 bit を 8 bit  $\times$  4 に変換させ、メモリの有効利用を図っている。以上の様に符号化コードメモリからのデータは制御回路を経て、符号化と逆の手段により L' a' b' 、更には R' G' B' へとそれぞれ復号化される。また、 L' a' b' からの信号は不図示の変換装置によって Y' M' C' へと変換される。

第 6 図はエンコーダ部 206 のブロック図である。図に於いて 601 は色変換器であり、入力の R' G' B' データを CIE 1976 L' a' b' 表色系の明度データ L' 及び色度データ a' b' に変換する。602 は明度符号器であり、明度データ L' を L-code に符号化する。603 は色度符号器であり、色度データ a' b' を統括しつつ、最終的な ab-code に符

号化する。

第 7 図はデコーダ部 208 のブロック図である。復号化は符号化に比べて扱う bit 数が少ないための構成は小さくなるが、アルゴリズムとしては符号化の逆を行うことで実施される。

以下時分割データ処理を詳細に説明する。第 5 図に示した通り画像データは  $4 \times 4$  のブロックで順次統括的に符号化される為、4 画素  $\times$  4 ラインを 1 単位としてメモリ空間の 1 アドレスとし、そこに 32 bit の符号化コードデータを第 8 図のタイミングで格納し、更に YMCK それぞれのタイミングで読み出していく。つまり  $4 \times 4$  の 16 コのブロックに時分割し、それぞれのブロックでメモリへの符号化データの書き込みや、各色の読み出しなどをあらかじめ決めておき、それぞれ独立してメモリ空間のアドレスへアクセスする系である。

次に時分割処理を行い符号化コードデータを読み出し、更に復号化処理を行うプロセスについて説明する。上記したように符号化コードデータの読み

19

出しは時分割処理により  $4 \times 4$  のブロック中任意のタイミングで行われる。しかし、符号化は  $4 \times 4$  の画素ブロックを統括的に行い、1 つのデータとしている為、再度メモリから読み出し復号化する場合には  $4 \times 4$  の画素データに戻すことが必要となる。その為複合器に対して  $4 \times 4$  のブロックに対応したデータ（つまり 16 コ分のデータ）を入力することが必要となる。

これを例えば以下の様に実現する第 8 図の C (READ) のタイミングについて考えてみると、第 9 図の LE1 ~ LE4 には LE2 を DIN に符号化コードデータを入力すると、別途取り付けたラインメモリに 32 bit を並直変換されたコードデータが 1 ブロックに 1 つの割合でストアされ副走査 4 ラインを終るまでラインメモリからデータを出力し続ける。またラインメモリからのデータは後段の直並変換部により再度 32 bit データに戻される。M' Y' K' もそれぞれ第 9 図の LE1 ~ LE4 の入力に対して LE1, LE3, LE4 のタイミングパルスを入力することで

20

同様に動作させることができる。

像域分離処理 210 は前述の 213 ~ 215 で生成された判定信号に基づいて黒文字、色文字、網点画像、中间調画像についてそれぞれ以下の処理を施す。

#### 【処理 1】 黒文字に関する処理

【1-1】ビデオとしてスミ抽出で求められた信号 (219' ~ 222') を用いる

【1-2】Y (221'), M (219'), C (220') データは多値の無彩色度信号 3341 もしくは設定値に従って減算を行う。一方、Bk (222') データは多値の無彩色度信号 3341 もしくは設定値に従って加算を行う。

【1-3】エッジ強調を行う。

【1-4】なお黒文字は高解像度 400 線 (400 dpi) にてプリントアウトする

- [1-5] 色残り除去処理を行う
- [処理2] 色文字に関する処理
  - [2-1] エッジ強調を行う
  - [2-2] なお色文字は400線(400 dpi)にてプリントアウトする
- [処理3] 線点画像に関する処理
  - [3-1] モアレ対策のためスムージング(主走査に2画素)を行う
- [処理4] 中間調画像に関する処理
  - [4-1] スムージング(主走査方向に2画素ずつ)またはスルーの選択を可能とする。

次に上記処理を行う回路について説明する。

第10図、第11図は像域分離処理を詳しく説明するブロック図である。第11図ではM成分のみの回路図を示しているが、他3色(C、Y、K)に関しても同様なので、ここでは省略する。

第11図の回路は、ビデオ入力信号219またはMBk219'を選択するセレクタ6e、そのセレクタを制御する信号を生成するANDゲート

6e'、後述する色残り除去回路を行うブロック16e、同処理のイネーブル信号を生成するANDゲート16e'、セレクタ6eの出力13eとI/Oポートの設定値14e乗算を行う乗算器15e、XORゲート20e、ANDゲート22e、加減算器24e、1ラインデータを遅延させるラインメモリ26e、28e、エッジ強調ブロック30e、スムージングブロック31e、スルーデータまたはスムージングデータを選択するセレクタ33e、同セレクタの制御信号の同期あわせのためのディレイ回路32e、エッジ強調の結果またはスムージングの結果を選択するセレクタ42e、同セレクタの制御信号の同期あわせのためのディレイ回路36eおよびORゲート39e、ANDゲート41e、文字判定部に対して400線(dpi)信号("L"出力)を出力するためのインバータ回路44e、AND回路46e、OR回路48eおよびビデオ出力225と224の同期合せのためのディレイ回路43eより構成される。また像域分離処理はI/Oポート

## 23

ト1eを介して図示しないCPUバスと接続されている。

以下[1]黒文字部のエッジの周囲に残る色信号を除去する色残り除去処理と黒文字部判定部のY、M、Cデータに対してある割合で減算し、Bkデータに対してはある割合で加算を行う部分、[2]文字部に対してエッジ強調、線判定部にスムージング、その他の階調画像はスルーデータを選択する部分、[3]文字部に対しては224を"L"にする(400dpiでプリントする)部分の3つに分けそれぞれについて説明する。

## [1] 色残り除去処理および加減算処理

ここでは、無彩色であるという信号GRBi3341と、文字部であるという信号MJAR3342の両方がアクティブである所、つまり黒文字のエッジ部とその周辺部に対する処理であって、黒文字のエッジ部からはみ出しているY、M、C成分の除去と、エッジ部のスミ入れを行っている。

## 24

次に具体的な動作説明を行う。

この処理は文字部判定を受け(MJAR3342 = "1")、黒文字である(GRBi3341 = "1")。したがって、セレクタ6eではビデオ入力219が選択(I/O-6(5e)に"0"セット)される。従って15e、20e、22e、17eではビデオ8eより減算するデータが生成される(C、Yデータについても同様)。

さらにセレクタ出力データ13eとI/O-14eにセットされた値との乗算が乗算器15eで行われる。ここで13eに対し0~1倍のデータ18eが生成される。レジスタ9e、25eに1を立てることにより、18eの2の補数データが17e、20e、22eにて生成される。最後に加減算器24eにて8eと23eの加算23eは2つの補数なので実際は17e-8eの減算が行われ25eより出力される。

記録色Bkデータ(222)時は、セレクタ6eにてBkMJ222'が選択(I/O-6(5e)に"1"セット)される。15e、20e、

22e、17eではビデオ17eに加算するデータが生成される。上記M時と異なる点はI/O-4、9eに“0”をセットすることでこれにより23e=8e、Ci=0となり、17e+8eが25eより出力される。係数14eの生成の仕方はY、M、C時と同様である。

この処理を図に示したのが第12図である黒文字Nの斜線部を拡大したものが(a)、(c)である。Y、M、Cデータに対しては文字信号部が“1”である所はビデオからの減算が(同図(b))、Bkデータに対しては文字信号部が“1”である所はビデオに対して加算が(同図(d))行われる。この図では13e=18eつまり文字部のY、M、Cデータは0、Bkデータはビデオの2倍の場合の例である。

この処理により黒文字の輪郭部はほぼ黒単色で打たれるが、輪郭信号の外にあるY、M、Cデータ第12図(b)に示した\*印は色残りとして文字の回りに残ってしまい見苦しい。

その色残りをとるものが色残り除去処理であ

る。この処理は文字部の領域を抜けた範囲にはいっており、かつ、ビデオデータ13eがCPUがセットするコンバレート値より小さい所、つまり文字部の外側で色残りがある可能性を持っている画素について前後3画素または5画素の最小値をとるようにする処理である。

次に回路を用いて説明を補足する。

第13図は文字部領域を抜けるようにする働きをする文字領域拡大回路でDF/F65e～68eおよびANDゲート69e、71e、73e、75e、ORゲート77eより構成される。

I/Oポート70e、72e、74e、76eに全て“1”を立てた時はMJA3342が“1”であるものに対し、主走査方向に前後2画素抜けた信号がI/Oポート70e、75e “0”、71e、73e “1”的時は主走査方向に前後1画素抜けた信号がSig2 18eから出力される。

次に、色残り除去処理回路16eについて説明する。

27

第14図は、色残り除去処理の回路図である。

第14図において、57eは入力信号13eに対し、注目画素とその前後1画素の計3画素の最小値を選択する3画素minセレクト回路、58eは入力信号13eに対し、注目画素とその前後2画素の計5画素の最大値を選択する。5画素minセレクト回路、55eは入力信号13eとI/O-18(54e)の大小を比較するコンバレータで54eの方が大きい場合に、1を出力する。61e、62eはセレクタ、53e、53'eはORゲート、63eはNANDゲートである。

上記構成において、セレクタ60eはCPUバスからのI/O-19の値に基づいて、3画素minか5画素minかを選択する。5画素minの方が色残り除去の効果が大きくなる。これはオペレータのマニュアル設定またはCPUの自動設定によりセレクトできる。

セレクタ62eは、NANDゲート63eの出力が“0”的時、すなわちコンバレータ55eに

28

よりビデオデータ13eがレジスタ値54eより小さいとされ、かつ文字部の信号を抜けた範囲にはいっており、17'eが1の場合にはA側が、そうでない場合にはB側が選択される。(但し、このときレジスタ52e、64eは“1”、レジスタ52'eは“0”)

B側が選択されたときは、スルーデータが8eとして出力される。

EXCON50eは、例えば輝度信号を2値化した信号が入力した時コンバレータ55eの代わりで用いることができる。

上記2つの処理を施した所を図に示したのが第25図である。第15図(a)は黒文字Nで、第15図(b)は斜線部の濃度データであるY、M、Cデータにおいて文字と判定された領域、すなわち文字判定部(\*2、\*3、\*6、\*7)は減算処理により0に、\*1、\*4は色残り除去処理により\*1-\*0、\*4-\*5となり、その結果0になり、第15図(c)が求められる。

一方、第15図(d)のようなBとデータに

については、文字判定部 (\*8, \*9, \*10, \*11) に加算処理のみが施され、第25図に示すような黒色の輪郭の整った出力となる。

なお色文字については、第25図(f)に示すように変更は加えられない。

### [2] エッジ強調 or スムージング処理

ここでは、文字判定部に対してはエッジ強調、網点部に対してはスムージング、その他はスルーを出力する処理が行われる。

文字部→M J A R 3 3 4 2 が "1" であるので、25e, 27e, 29e の3ラインの信号より生成される  $3 \times 3$  のエッジ強調 30e の出力がセレクタ 42e にてセレクトされ、43e より出力される。なお、ここでエッジ強調は第16図に示すようなマトリックスと計算式から求められるものである。

網点部→S C R N 3 5 e が "1"、M J A R 21e が "0" であるので 27e に対してスムージング 31e がかけられたものが、セレクタ 33e, 42e にて出力される。なお、ここでスムー

ジングは第17図に示すごとく、注目画素が  $V_n$  の時 ( $V_n + V_{n+1}$ ) / 2 を  $V_n$  のデータとする処理、つまり主走査2画素のスムージングである。これにより網点部に生じる可能性のあるモアレを防いでいる。

その他一その他の部分とは文字部(文字輪郭)でも網点部でもないところ、具体的には中間調の部分に対する処理である。この時、M J A R 3 3 4 2 および S C R N 3 5 e ともに "0" なので、27e のデータがそのままビデオ出力 43e より出力される。

文字が色文字の時は、文字判定部であっても、上記2つの処理は施されない。

実施例では主走査方向のみに色残り除去を施した例を示したが、主走査、副走査ともに色残り除去処理を施してもよい。

### [3] 文字部 400 線 (d p i) 出力処理

ビデオ出力 225 に同期して 48e から 2.24 が出力される。具体的には M J A R 3 3 4 1 の反転信号が 43e に同期して出力される。文字部の

## 3 1

時は  $224 = 0$ 、その他の部分は  $200 / 400 = "1"$  となる。

これにより文字部判定部、具体的には文字の輪郭部は 400 線 (d p i) にて、その他は 200 線にてプリントにて打たれる。

以上の様に 4 色データにそれぞれ上述の処理を施し、その後マスク正 2.1.1、エッジ強調 2.1.2 を又、4 色分の  $200 / 400$  線切換信号 224 をディレイ回路 223 にて 229 ~ 232 と同期させ L B P プリント 102 に送る。

こうして圧縮、伸張劣下にもかかわらず文字は高解像で画像は高階調でさらに黒文字は黒単色で出力される。

#### 【第2の実施例】

第18図は第2の実施例を説明するプロック図である。第1の実施例と異なる点は文字検出部のデータを圧縮後のデータを用いることである。色検出部 213、文字検出部 1801 は第1の実施例と全く同様、さらにメモリ部 1803 は第1の実施例に対して半分の容量 (4 b 1 t) になって

## 3 2

いる。

この手法によると、圧縮伸張による画像劣化が画像に出やすいという欠点もあるが、メモリ容量が少なくて済むという大きな利点を持つ。

以上説明した様に、入力画像データもしくは、前記入力画像データを圧縮して記憶されたデータの少なくとも一方を用いて画像の性質を検出し、さらにその検出結果に基づいてメモリから読み出されたデータに画像処理を施すことにより入力画像データを圧縮してメモリに記憶する系においても、像域分離処理を行うことが可能になり高階調、高画質の出力画像を得ることができる。

なお上述の実施例においては、画像信号と(属性)情報の両方について同一の  $4 \times 4$  ブロックごとに処理を行なっていたが、これに限るものではなく  $4 \times 4$  に限らず任意のサイズでもよい。

また、画像の性質に関する属性情報として画像から判定された文字領域情報と黒画素情報について処理していたがこれに限るものではない。

また、上述の入力手段はイメージスキャナに限

らすTVカメラ、SVカメラ、コンピュータのインターフェイス等であっても良い。

また、ドットプリンタ、熱転写プリンタ、インクジェットプリンタ、熱エネルギーによる膜沸騰を利用して~~熱蒸気~~を吐出するタイプのヘッドを用いたプリンタ等でも良い。

また、本発明は、画像複写装置に限らず、カラーファクシミリ、カラー画像ファイルシステムにも適用することができる。即ち、第2図のメモリ部207の出力に対して、モデムを接続することにより符号化データを送信することができ、受信側にはデコーダ部208以降を設けることにより、カラーファクシミリとして使用することができる。また、メモリ207を例えば、光磁気ディスクやフロッピーディスクにすることにより、ファイルシステムとして使用することもできる。

また、画像の符号化方法は、ブロックごとに符号化するものであれば、直行変換符号化、例えば、いわゆるADCT (adaptive discrete cosine transform

)、ベクトル量子化、等いずれの符号化を用いても良い。

また、L・a・bの成分ではなく、L・U・VやY・I・Q等の成分で符号化を行っても良い。

また、輝度成分と色度成分に変換せずに、RGBの成分のまま符号化しても良い。

#### 【発明の効果】

以上説明した様に、本発明によれば、高画質の画像を得ることのできる画像処理装置を提供できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の画像処理装置の断面図、

第2図は本発明の装置の全体ブロック図、

第3図は文字画像領域分離回路を示す図、

第4図はメモリを示す図、

第5図は画像の符号化を示す図、

第6図、第7図は信号変換を示す図、

第8図はメモリのアドレスを示す図、

第9図は信号のタイミングを説明する図、

第10図、第11図は文字画像補正部を示す図

35

第12図は加減算処理を示す図、  
 第13図は切り替え信号生成の回路図、  
 第14図、第15図は色残り除去処理回路図、  
 第16図、第17図はフィルタ処理を示す図、  
 第18図は本発明の第2の実施例を説明する図である。

出願人 キヤノン株式会社

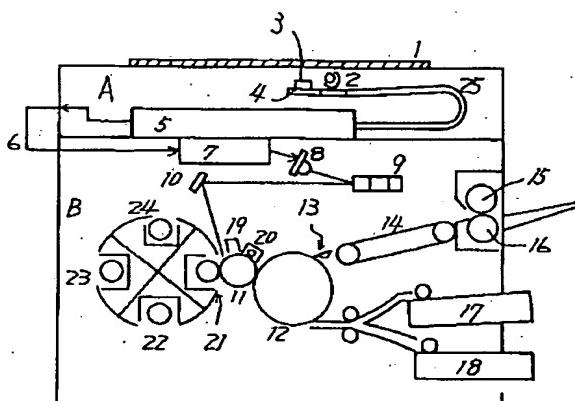
代理人 丸 島 勝 一

西 山 恵 三

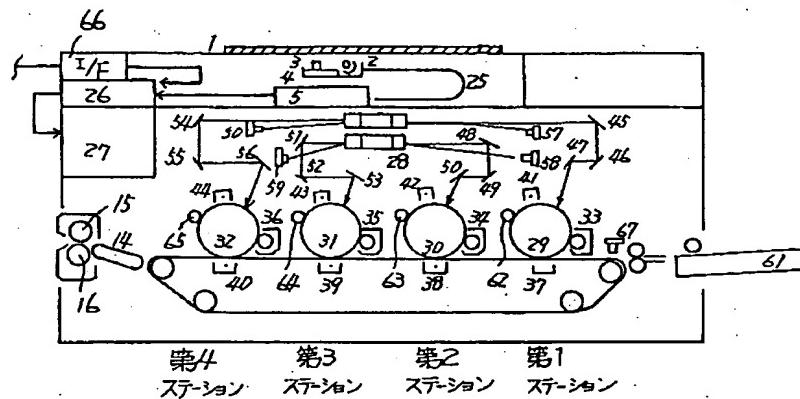


36

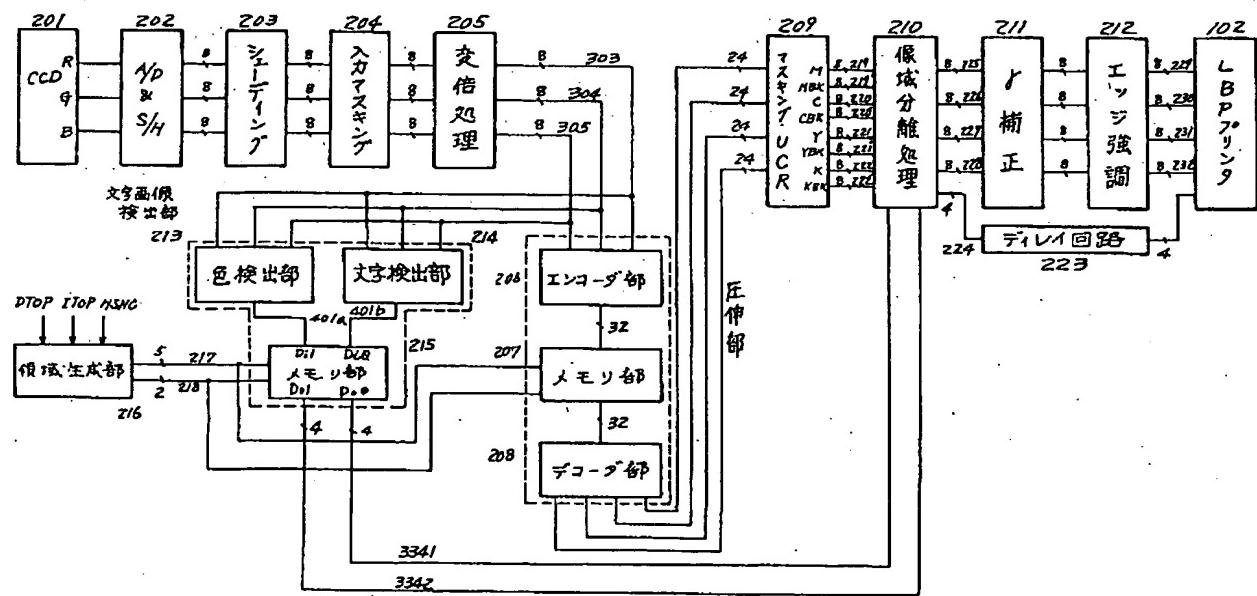
#### 第1図 (a)



第1図 (b)

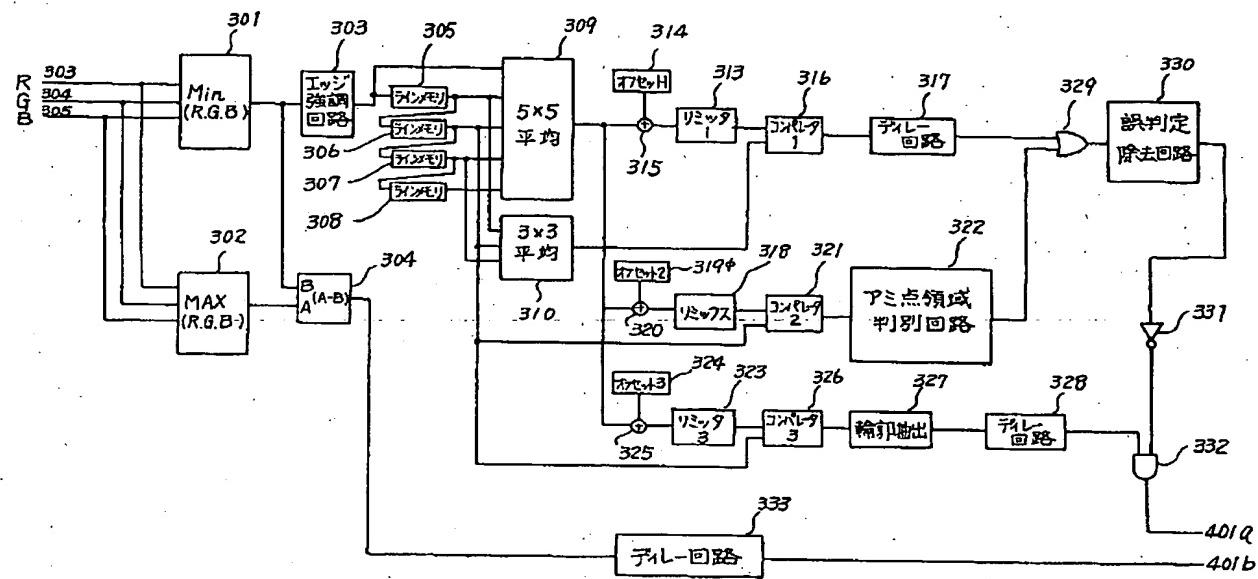


第2図

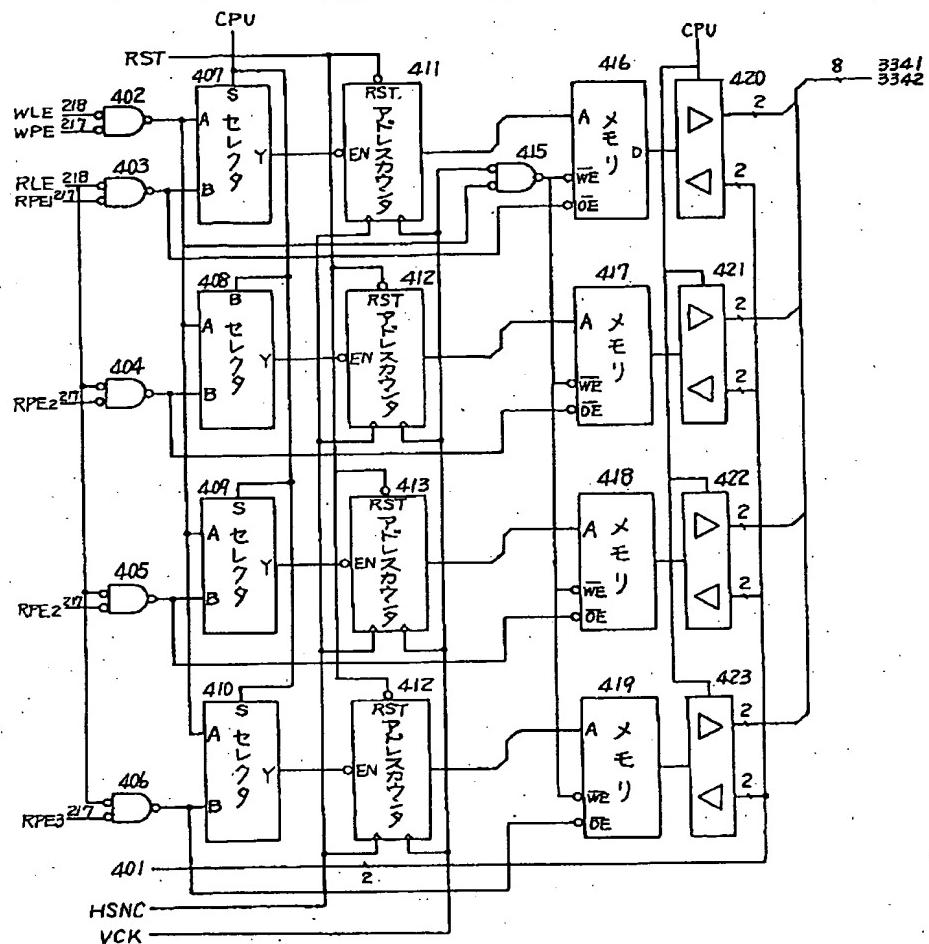


## 第3回

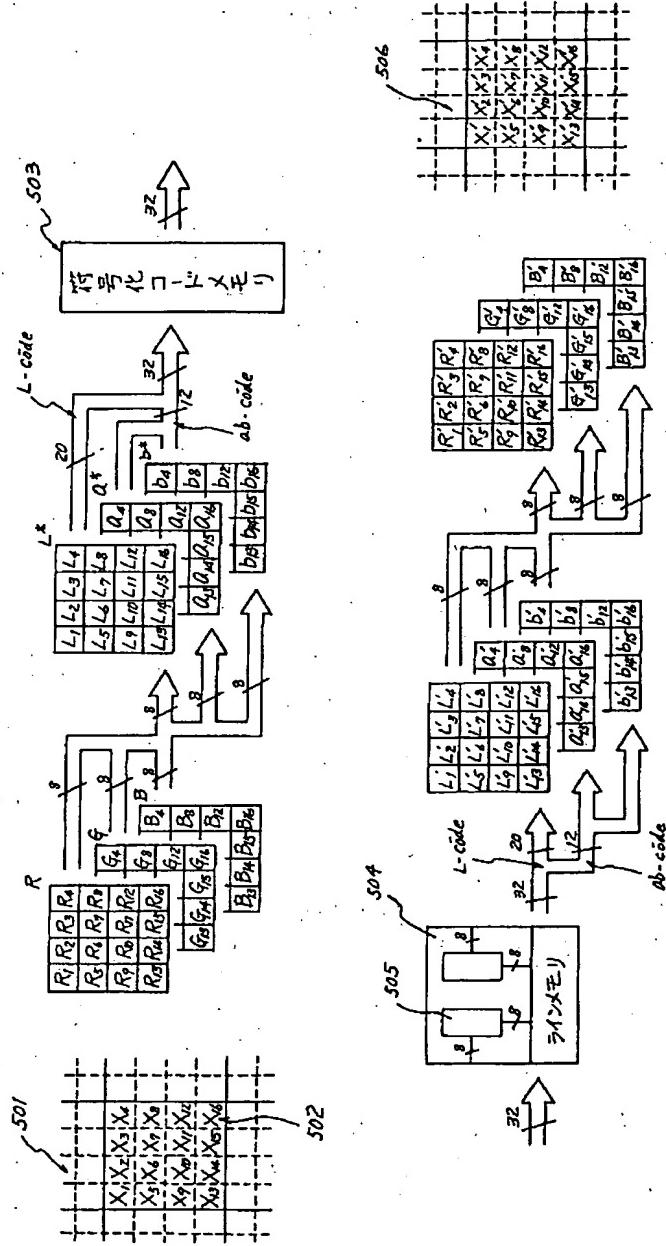
文字画像領域分離回路



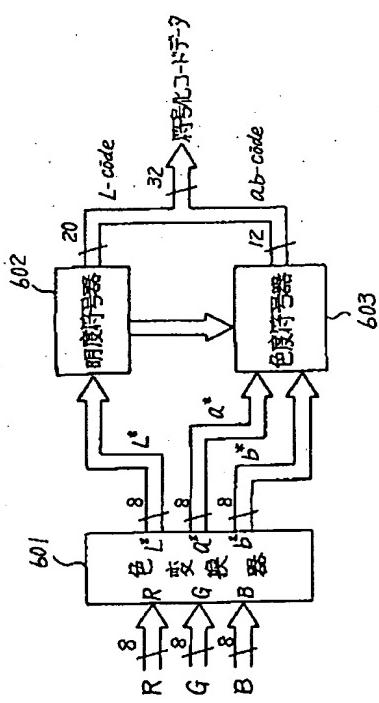
第4回



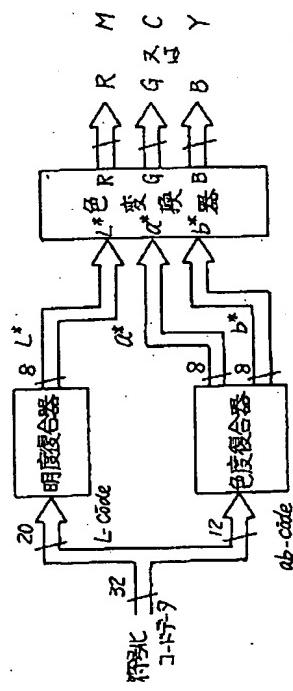
## 第5回



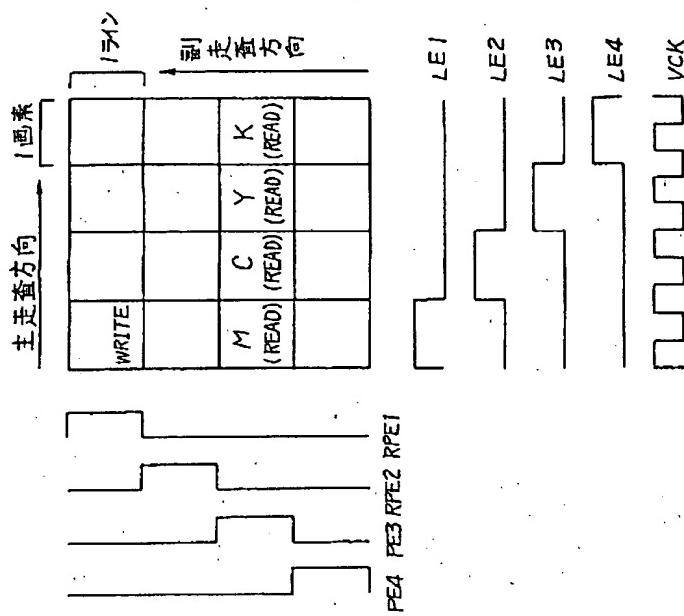
第 6 図



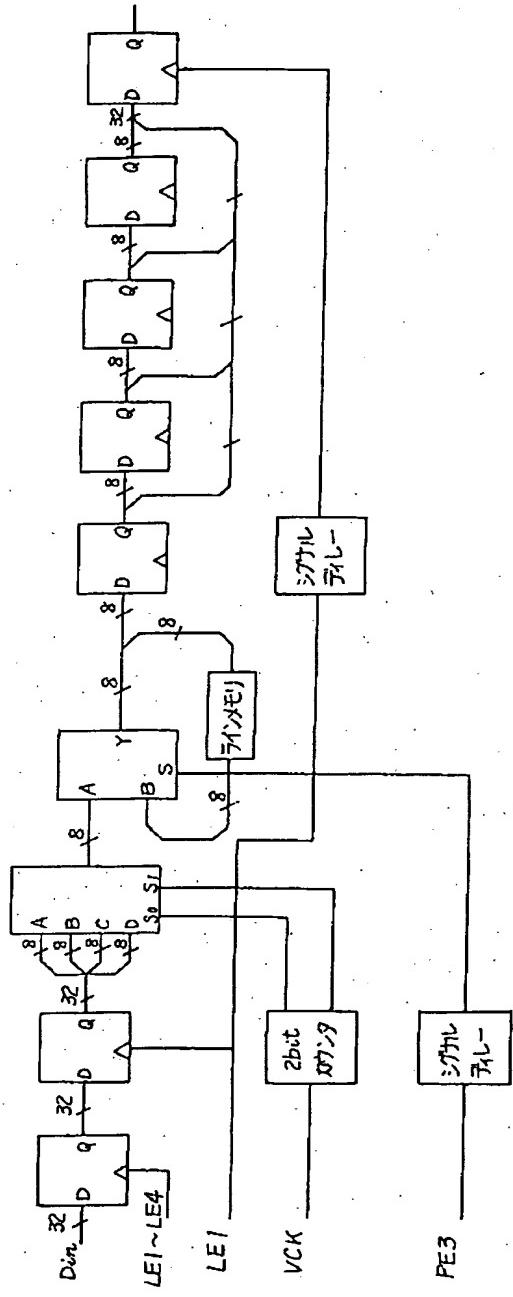
第 7 図



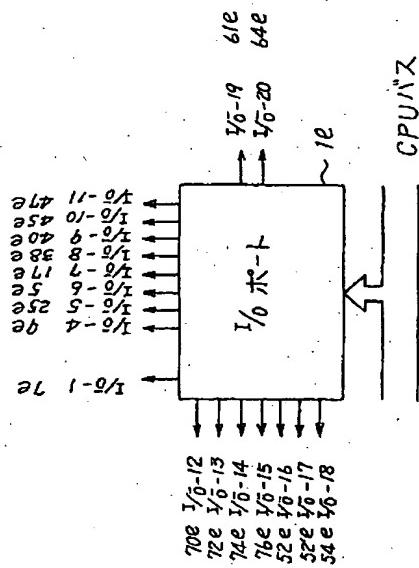
第 8 図



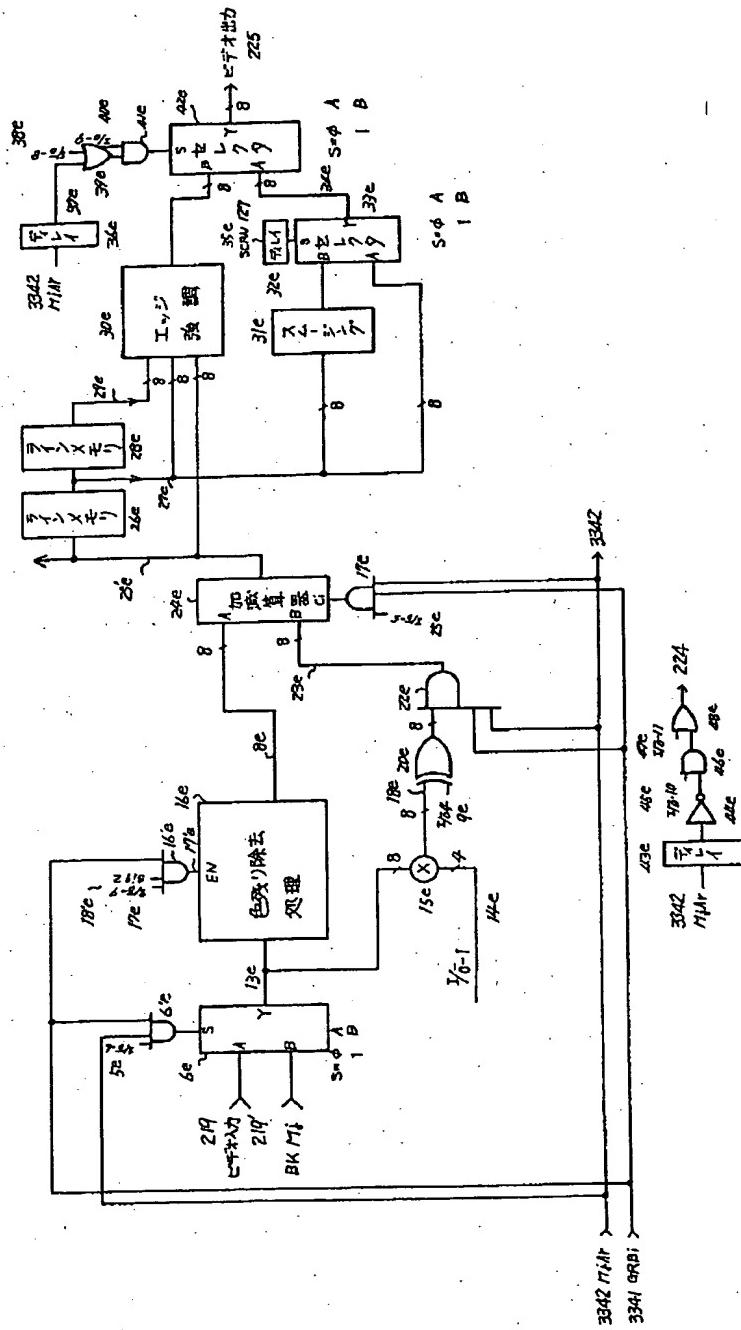
第9回



第10回

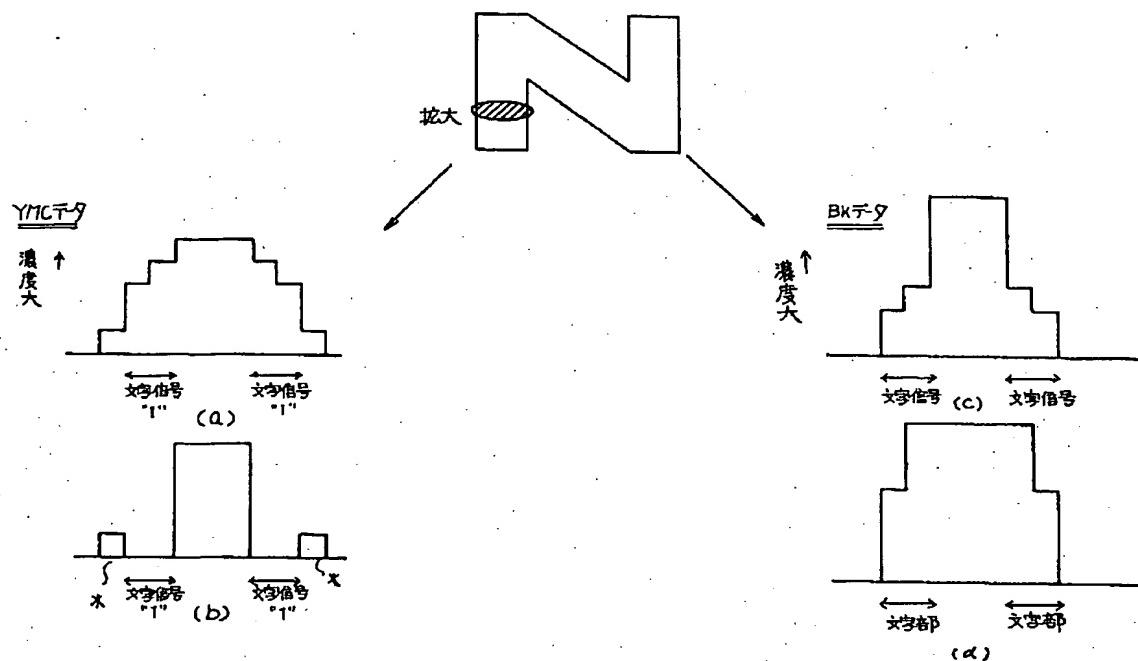


第 11 図  
文字画像補正部 ブロック図



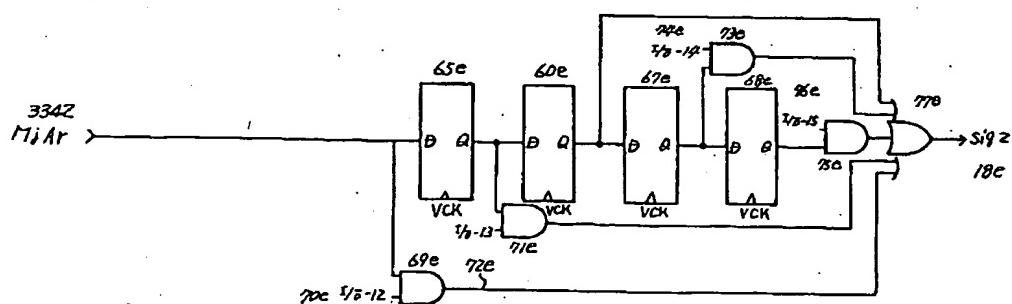
## 第12図

加減算処理  
(黒文字にのみ作用)

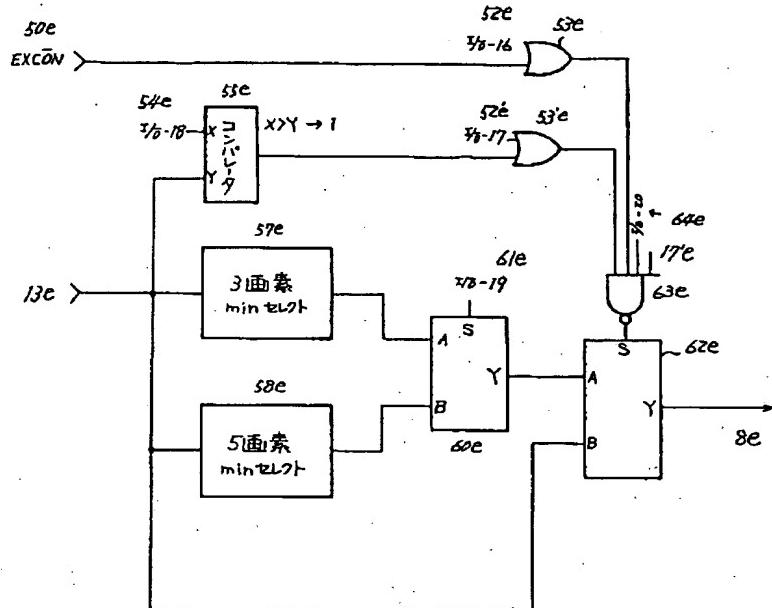


## 第13図

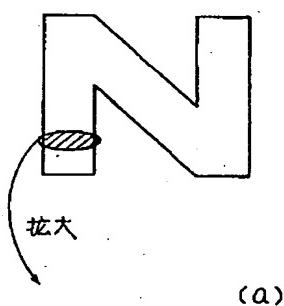
切換信号生成回路図



第 14 図  
色残り除去処理回路図



第 15 図  
色残り除去処理

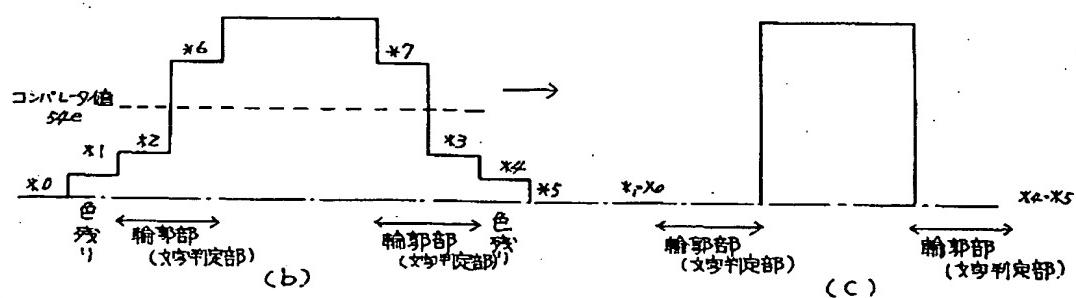


(a)

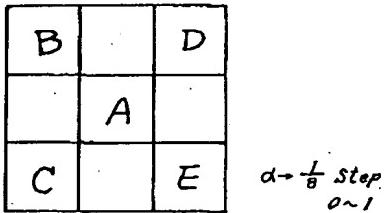
(YMC-タ)

黒文字

濃度

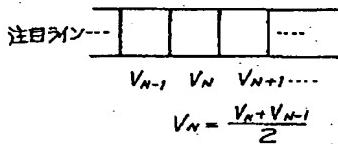


## 第16回 エッジ強調処理



$$A + d \{ 4A - (B + C + D + E) \}$$

## 第17回 スムージング処理



第18回

